

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	解剖生理学演習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	基礎医学実習室 他
担 当 教 員	橋村 康二	実務経験とその関連資格	6年間の臨床経験と15年間の教育経験を有する。加えて修士課程修了の学位を有する。			
《授業科目における学習内容》						
解剖生理学演習Ⅰに引き続き、人体の生理学機構について実験を通じて理解を深める。 反射、呼吸、感覚における生理学的現象を実験を通じて確認し、これまで学習した知識を用いて起こった現象を考察する。 個人、あるいはグループで協力しあい、学びあいながら進める。						
《成績評価の方法と基準》						
出席状況20%、取り組み姿勢20%、課題内容60%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
配布資料						
《授業外における学習方法》						
解剖生理学Ⅰ～Ⅳの復習をする						
《履修に当たっての留意点》						
解剖生理学Ⅰ～Ⅳで使用した教科書や配布資料持参すること						
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	反射の概念と各反射のメカニズムを調べなおし理解する	テキスト 配付資料	反射のメカニズムを復習しておく	
		各コマにおける授業予定	これまでの資料や教科書を使用し調べ学習を行う			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	反射の概念と各反射のメカニズムを調べなおし理解する	テキスト 配付資料	反射の検査方法を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	これまでの資料や教科書を使用し調べ学習を行う			
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	反射検査を実施し反応を記録できる	テキスト 配付資料	反射の検査方法を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	グループで実験を行い結果を記録する			
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	反射検査を実施し反応を記録できる	テキスト 配付資料	改めて必要な反射に関する知識を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	グループで実験を行い結果を記録する			
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	個人、グループで考察できる	テキスト 配付資料	改めて必要な反射に関する知識を復習しておく	
		各コマにおける授業予定	反射検査の結果を個人、グループで考察する			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	各感覚受容器、脳の体性感覚やの支配領野を復習できる	テキスト 配付資料	感覚の種類、受容器ムを復習しておく
		各コマにおける授業予定	これまでの資料や教科書を使用し調べ学習を行う		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	手掌と前腕、上腕における二点識別覚試験を実施できる	テキスト 配付資料	二点識別覚試験の方法を復習しておく
		各コマにおける授業予定	グループで実験を行い結果を記録する		
第8回	講義 形式	授業を通じての到達目標	手掌と前腕、上腕における二点識別覚試験を実施できる	テキスト 配付資料	二点識別覚試験の方法を復習しておく
		各コマにおける授業予定	グループで実験を行い結果を記録する		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	各部位の試験結果について考察できる	テキスト 配付資料	改めて必要な反射に関する知識を復習しておく
		各コマにおける授業予定	個人、グループで考察する		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肺活量等の復習を行うことができる	テキスト 配付資料	換気の生理学を復習しておく
		各コマにおける授業予定	これまでの資料や教科書を使用し調べ学習を行う		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肺活量等の復習を行うことができる	テキスト 配付資料	換気の生理学を復習しておく
		各コマにおける授業予定	これまでの資料や教科書を使用し調べ学習を行う		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	肺活量、%肺活量等を測定できる	テキスト 配付資料	スパイロメーターの使用 方法を復習しておく
		各コマにおける授業予定	グループで実験を行い結果を記録する		
第13回	講義 形式	授業を通じての到達目標	肺活量、%肺活量等を測定できる	テキスト 配付資料	スパイロメーターの使用 方法を復習しておく
		各コマにおける授業予定	グループで実験を行い結果を記録する		
第14回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	各部位の試験結果について考察できる	テキスト 配付資料	改めて必要な反射に関する知識を復習しておく
		各コマにおける授業予定	個人、グループで考察する		
第15回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	各部位の試験結果について考察できる	テキスト 配付資料	改めて必要な反射に関する知識を復習しておく
		各コマにおける授業予定	個人、グループで考察する		